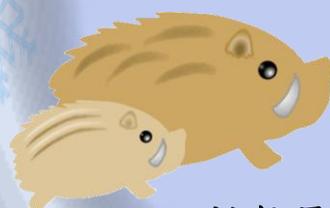


# 薬草園だより



新年号

新年あけましておめでとうございます！ 今年は何かが変わる節目の年ですね。  
これを機に何か新しいことを始めるのもよいのではないのでしょうか♪  
今回は水仙と桂皮をご紹介します。

## 水仙

ヒガンバナ科

水仙は下向きにラッパ状の花を 12 月～4 月にかけて咲く植物で、生薬として球根を使います。この球根（鱗茎）はアルカロイドという嘔吐、下痢、昏倒などを引き起こす毒性の強い成分がありますが、鱗茎を擦り下ろし、こしたものを小麦粉、酢を混ぜ合わせることで、腫物や肩こりに効く軟膏になります。ただしそのまま塗布すると痒くなるために患部に予めゴマ油を塗ってから用います。他にも花を日干しにすることで内服を可能にし、煎茶にして飲むことで月経不順に良いと言われています。



水仙はニラやノビルに似ているために誤って食べてしまい、中毒症状になる方が毎年いらっしゃるの、山菜取りをする方はお気をつけください。

## 桂皮

クスノキ科

浜葉の薬草園にはジャワニッケイ（学名：*Cinnamomum burmannii*）があります。

樹皮を桂皮と呼び、芳香性健胃、発汗、解熱、鎮痛、整腸、駆風（くふう）、収斂（しゅうれん）の効果があります。桂皮の香りといえば、京都の銘菓「八ッ橋」の香りです。鎖国時代、良品質の桂皮がなかなか手に入らなかったため、日本産のケイの根皮（肉桂：ニッケイ）で代用していました。そうです「ニッキ」の言葉の語源なんです。英名は皆さんもよくご存じの「シナモン」です。今ではシナモンロールなどのお菓子、カレー粉やウスターソースにもスパイスとして入っているんです。意外に我々の身近な所にいたんですね。



171028	鍛冶 明利	172027	枝村 優哉	薬草園	設楽 満希
171058	栗山 敦	172047	神田 章吾	園長	榊原 巖
171122	山口 敦子	172051	木田 智裕		